

本棚 ぶらり

テーマ 駅

『もじ鉄 書体で読み解く 日本全国全鉄道の駅名標』

いしかわゆうき
石川祐基／著

三オブックス 2018年



えきめいひょう
駅名標とは、駅のホームなどに設置されている、駅名が書かれた看板のこと。国内各地の駅名標のデザインにスポットを当て、一冊にまとめたのがこの本です。「鉄道と駅の看板・文字が好きなのは、『もじ鉄』と呼ぼう」という著者の宣言のもと、「乗り鉄」「撮り鉄」などに続く、「もじ鉄」が誕生しました。

駅名標のデザインは、看板としての形、使用されている文字の書体や色、駅名などの情報で構成されていて、なかにはイラスト入りのものもあります。「もじ鉄」の世界に一步踏み込んでみると、路線ごとに異なる駅名標の“個性”を感じることができるでしょう。

『日本の駅100選』

はらくちたかゆき
原口隆行／監修

主婦の友社 2010年



鉄道の駅が主役の本。冒頭の「はじめに」によれば、日本には約9,000もの鉄道駅があるそうで、それらがある条件に則り、100選に絞り込んで紹介しています。「駅の姿を写真で見ながら、来歴と特徴を知ることができる」というシンプルな内容ですが、色鮮やかな写真と読みやすい文章のおかげか、鉄道や駅に関心がない人でも楽しめるようになってきました。むしろ、関心がない人ほど、駅の多様な形に驚かされるし、新たな発見もあるのではないのでしょうか。この本の影響で、立ち寄った駅を眺めたり、写真に撮ったりするのが趣味になってしまうかも。

『駅弁掛紙の旅』

いずみ かずお
泉 和夫／著

交通新聞社 2017年



駅弁の蓋の上によって紐で縛られている紙「^{かけ}掛紙」。本書は、著者が収集した全国各地の掛紙の中から、明治～昭和期を中心として、その歴史や背景等をあわせて紹介するものです。

ただの紙と違って侮るなかれ、例えば、諫早公園に移設される前の眼鏡橋の絵が載っているなど、今では見ることのできない当時の名所・風景を、掛紙を通して目にすることができるよう。また、戦時下には戦時歌謡曲『麦と兵隊』や戦時標語が掲載されたものが見られるなど、当時の世相を反映した貴重な資料も収録されています。

本書に掲載されている掛紙をじっくり見てみると、なにか新しい発見があるかもしれません。ぜひ一枚一枚時間をかけて見てみてください。

『東京「駅名」の謎』

たにかわあきひで
谷川彰英／著

祥伝社 2011年



「御徒町駅は徒士という下級武士たちが住んでいた」「九段下駅の『九段』は、坂が急なあまり九層の階段が置かれたことに由来」「三越前駅は、三越が全面的に建設費を負担した」……。東京にある駅名からその歴史を紐解き、由来を紹介していきます。特に印象深い点は、江戸時代や明治時代の大火に関係している地名が複数あることです。本願寺が焼失し再建のためにその地を埋め立てたことから「築地」、火除けの神様として有名な秋葉神社を勧請したことから「秋葉原」など、大火が江戸・東京に与えた影響の大きさがうかがえます。

人に思わず教えたくないような内容はもちろんのこと、自分の身近な駅名の歴史も調べてみたいと思わせる、知的好奇心を大いにくすぐる一冊です。